

MONTHLY REPORT

- I. Camp Meeting in Japan 2013～第17回日本キャンプ会議～発表者募集
- II. キャンプアカデミー「グリーンケアとキャンプの接点」報告
 - ・ 都道府県キャンプ協会事務局担当者のみなさまへ
 - ・ NCAJ CALENDAR
 - ・ TOPICS



2月中旬、アメリカキャンプ協会の年次大会に参加するために、テキサス州ダラスへ行ってきました。

テキサスは、グリーンキャンプの実習をさせてもらっている El Tesoro de la Vida のお膝元ですので、お礼の意味も兼ねて発表に挑みました。ひとつのセッションは75分と、かなり長いです。おまけにアメリカと日本のキャンパーの違いなど、日本語でも説明が難しい内容が含まれますから、案の定、英語はどこからかへ口へ口に。きちんと伝えられない部分も多く残りました。それでも、子どもたちがつらいことに直面しても生き延びることのできる力を身につけるためにキャンプが役立つに違いないということ、国を越えた学びが大きな意味を持つということ言葉を介して、東日本大震災以来たくさん受け取った善意に対する感謝の気持ちは示すことができたと思います。

もっとも、表現できたと思った以上に、「母国語以外で心の問題を説明するのは難しいものだよ」という慰めの言葉を多く受け取ったような気もしないではないのですが…。

アメリカには仕事で何度か訪れていますが、その度に、伸びやかな気持ちと重苦しいプレッシャーのようなものの両方を感じます。伸びやかな気持ちの原因は、キャンプに携わる人たちそのもの。この大会で出会うのは、善意の塊のような人ばかりです。言葉もわからないのに行ってなんになるのかと思う向きもあるでしょうが、毎回、何らかの楽しみを見いだすことができますし、得られるものは少なくありません。

一方の、プレッシャーのようなものの原因は、アメリカにおけるキャンプの存在感やそこに携わるボランティアのあり方が、日本とあまりに違うことです。この大会はいつも立派なホテルが会場で、参加者は1,000人超。これだけでもキャンプの存在感の違いがわかります。また、私の発表には、El Tesoro de la Vida のディレクター、デニスさんがお手伝いくださいましたが、彼は20年以上このキャンプに携わるボランティアです。本業は銀行員、それも大銀行のかんりの重役なのです。もちろん、労働のあり方が大きく違うとは言え、彼のような立場の人が多くの日々をキャンプのボランティアに費やすというのは日本ではそうあるものではありません。



左から2番目がデニスさん。子どもたちに大人気のディレクターです。

「ああ、すご〜く違うなあ」と大きなため息。しかし、このような違いが生じるのは、日本とアメリカの社会が大きく異なるからであって、アメリカ人のほうが人間的に立派とか、そんなことではありません。むしろ、アメリカは人々の自由に制限を加えて問題の少ない社会を作るより、問題が起きたときに素早く対症療法を施すことを選んだ社会であるということの反映として、ボランティアが盛んにならざるを得ないのであって、日本のほうが暮らしよい社会を作ってきたと考えることもできます。だから落ち込むことはないのだけれど、それでも日本の社会自体が変化し、システム劣化が散見されるようになっているのですから、社会をメンテナンスする装置としてキャンプがもっと活用されてほしいですし、ボランティアのあり方にも変化が求められているような気がします。

さて、社会のあり方の善し悪しは別として、対症療法は「今、足下で起きている問題をなんとかする」という態度ですから、それはそれで評価されてよいはず。キャンプに関わる各人が、身近な問題に対して「キャンプを使ってなんとかできないかな？」と考えてみる風土が根付いて、広がってゆけばよいと思います。

来年のアメリカキャンプ協会の年次大会は、2014年2月5日～8日、フロリダ州オーランドで行われます。この空気を感じに、大会に参加してみませんか？フロリダは2月でも温暖ですし、もしディズニーがお好きならば、会場のヒルトン・オーランドはディズニーワールドのすぐそばです。バケーションを兼ねて、ぜひ。

事務局長 金山竜也

I. Camp Meeting in Japan 2013～第 17 回日本キャンプ会議～発表者を募集しています

5 月 25 日(土)に実施する Camp Meeting in Japan 2013 で発表をして下さる方を募集しています。今回は、従来の実践報告・研究発表に加え、新たに「ワークショップ」による発表も募集します。キャンプの事例や最新の情報、研究成果、アクティビティをぜひ紹介してください。ご応募をお待ちしています。

発表方法 口頭発表：実践発表(20 分)もしくは研究発表(発表 12 分・質疑応答 3 分)

ポスター発表：縦 110cm×横 160cm のパネルへの掲示(質疑応答時間あり)

ワークショップ発表：さまざまな内容に対応します(ご相談下さい)

応募締切 4 月 1 日(月) ※抄録原稿の提出は 4 月 12 日(金)まで

参加費用 会員 2,500 円・学生 1,000 円・一般 3,000 円(税込)

※この費用は発表者として参加する場合の費用です。抄録集 1 冊が含まれます。

詳細は要項をご覧ください <http://www.camping.or.jp/campmeeting2013happyosya.pdf>

II. キャンプアカデミー「グリーフケアとキャンプの接点」報告

東京(2/9)・神戸(2/11)・仙台(2/23)の 3 会場でキャンプアカデミー「グリーフケアとキャンプの接点」を実施し、あわせて 68 人が参加しました。この事業は 3 月末に実施するグリーフキャンプ「SKY CAMP in よしま」のスタッフトレーニングを兼ねた内容で、キャンプアカデミーの前後にはスタッフの打合せも行いました。ここではその内容を簡単にご紹介します。

死別を経験した子どもたちのためのグリーフキャンプ

東日本大震災をきっかけに始まったグリーフキャンプの取り組みについて、その経緯や定義、必要な要素、今後の取り組みなどについて紹介しました。

東日本大震災では多数の行方不明者がおり、亡くなった方をきちんとお見送りができないことで苦しみを抱えつづける人が多く生じることが懸念されました。世界中のキャンプ関係者に「このような状況に対して、キャンプでできることはないか?」と呼びかけたところ、「グリーフキャンプ」についての情報が寄せられました。

実際に El Tesoro de la Vida という 1 週間のキャンプに参加してみると、グリーフキャンプは「どのような感情を表に出してもよいということが保証された、楽しさにあふれたキャンプ」もしくは「いくつかの特別な要素を加えた、準備の行き届いた組織キャンプ」であるということがわかりました。その要素となるのは、「楽しく、特別な場所」「キャンプカウンセリング」「ピア・カウンセリング」「人々の善意に触れる」「専門家との協働」といったことです。

日本ではまだまだ不十分と思われる要素もありますが、実際に震災で親をなくした子どもたちとキャンプを行うと、安心な環境の中で、亡くなった人のことについてお互いに話ができたり、いっしょにキャンプをした小さな子の元気な様子を見て「自分もしっかりしなきゃ」と気持ちを切り替えた高校生がいたり、成果につながりそうな出来事を目にすることができました。

まだまだ学ばなければならないこと、改善しなければならないこと、まったく新しく取り組まないといけないこともたくさんあります。それでも、私たちは機嫌よく、「どんなことがあっても、生き延びてほしい」というメッセージをキャンプの楽しさに添えて、子どもたちに伝えていきたいと思います。



グリーフとはなにか、どのようなサポートが必要かといったことを学んだ後に、グリーフサポートの場面で“自分が経験をしたことがないことを経験した人”とどう接するかをワークを通じて学びました。

私たちは、他の人の痛みや悲しみを代わってあげられません。グリーフケアというとなにかをしてあげるといった感じがしますが、そうではなくて、自分が経験していない経験をした子ども自身が居やすい状態でいられるようにサポートができればと思います。

生活の中には死別だけでなく、さまざまなダメージを与える出来事があります。東日本大震災では、大切な人を亡くしただけでなく、家や仕事、コミュニティなどさまざまな喪失体験が重なったので、その衝撃は非常に大きいのです。そろそろ震災から2年が過ぎようとしていますが、まだまだ復興は遠い状況で、日常のストレスは私たちが想像する以上に大きいと考えられます。

グリーフは「悲嘆」と訳されることが多いですが、愛着のあるものが失われたことによる心の状態なので、「いとおしさ」が基本にあります。ですから、喪失体験というだけでは決められない個性があるのです。自分のもの差しを当てはめて解釈をしないよう、まず自分の経験から離れる必要があります。また、「私はこうだった」という一人称の経験と、「あなたはそうだったんですね」という二人称の経験の間には距離があります。そのことを理解して、子どもたち自身がどうするのかということを大切にしたいと思います。ちょっと後ろをついて歩いていくという感じです。

子どもたちの場合、グリーフはエネルギーとして出てきます。そのエネルギーは、大きい場合もありますが、すごく小さな場合もあります。大きなエネルギーは人を傷つけてしまうこともありますから、遊びなどを通じて発散させることが大事です。小さなエネルギーは、おとなしくしているように見えるので、一見、問題がなさそうですが、気をつけておかないと子ども自身が自分の存在を確認できなくなる恐れもあります。いずれにしても受け止めてあげる人がいることが大切です。

キャンプには、活動的なもの、穏やかなものを含めてさまざまなアクティビティがありますが、子どもたちがエネルギーを表に出す場として、可能性があると思います。自分が経験していない経験をした子どもと私たちの間になにを置くかと考えたときに、遊びやキャンプのようなものを置くと、話がしやすくなるのではないかと思います。

死なせない、将来の可能性を狭めないようにするためにサポートが必要です。とはいえ、キャンプを含めた気持ちのサポートだけでは生活を支えることができないので、「餅屋は餅屋」で得意分野を持つ人たちがつながることが大切です。そうすれば、支援もつながっていきます。



紙に手形を取って、各指に「名前」「どこから来たか」「所属」「今の気持ち」「好きな食べ物」を書き、それを使って自己紹介。パーソナルデータや気持ちを話すことで、予期していなかった話がぽっと出てくる感覚を体験しました。



向き合った相手の動作をまねて、「ちゃんと受け取っているよ」と伝えます。この後、まねをしていてどんな気持ちの変化があったかを話し合いました。



色紙で作ったハートに、今日の気づきを書き込み、グループでシェアしました。

各都道府県キャンプ協会事務局担当者のみなさまへ

第2回都道府県キャンプ協会指導者研修会の出欠回答はお送りいただけましたか？

3月24日(日)に開催予定の都道府県キャンプ協会指導者研修会(担当者会)のご案内を2月5日(火)付けで、各県事務局あてにお送りしています。出欠について、**3月8日(金)**までにご回答くださいますようお願いいたします。

NCAJ CALENDAR

これまで

2/8	メールマガジン CAMPING News vol.62 発行	
2/9	キャンプアカデミー「グリーンケアとキャンプの接点」(東京)	@日本 YMCA 同盟
2/9-11	キャンプディレクター2級 PD 養成講習会	@吉野宮滝野外学校
2/11	キャンプアカデミー「グリーンケアとキャンプの接点」(神戸)	@神戸 YMCA 三宮会館
2/12-15	アメリカキャンプ協会年次大会	@テキサス州ダラス
2/16-17	キャンプディレクター2級 MD 養成講習会	@国立青少年センター
2/18	CAMPING 編集委員会	@国立青少年センター
2/19	CONE 安全委員会	@国立青少年センター
2/21	第9回常務会	@国立青少年センター
2/23	キャンプアカデミー「グリーンケアとキャンプの接点」(仙台)	@子どもグリーンサポートステーション

これから

2/26	第2回出合いと体験の森へ実行委員会	@東京 YWCA
3/1	メールマガジン CAMPING News vol.63 発行	
3/8	運営委員ミーティング	@国立青少年センター
3/9	第3回理事会	@国立青少年センター
3/14	CONE 理事会	@国立青少年センター
3/22	メールマガジン CAMPING News vol.64 発行	
3/23	第2回総会	@国立青少年センター
3/24	第2回都道府県キャンプ協会指導者研修会	@国立青少年センター
3/26-30	グリーンキャンプ・SKY CAMP in よしま	@神戸 YMCA 余島野外活動センター

TOPICS

子どもたちの環境学習活動に対する助成事業

公益財団法人高原環境財団では、緑化や自然体験などの環境学習活動の実践を通じて、自然環境の保全と改善について地域の子供たちの意識向上を図ることを目的に助成対象活動を募集しています。

- 対象者 日本国内の保育園、幼稚園、小学校、および子供会、町内会等の地域活動団体
- 対象事業 小学生以下の子ども対象の緑化や自然体験などの環境保全に関する体験・学習活動
- 対象地域 事業地が、原則として人口10万人以上の市区町村の都市計画法第7条に基づく市街化区域内であること
- 助成金額 1件あたり最高50万円(総予算400万円)
- 応募期間 2月1日(金)から5月24日(金)まで(必着)
- 詳細 WEB http://takahara-env.or.jp/bosyu/02_env_study.html

問合せ先・申請先：公益財団法人高原環境財団

〒108-0074 東京都港区高輪 3-25-27-1301

Tel : 03-3449-8684

Fax : 03-3449-2625

E-mail : mail@takahara-env.or.jp



公益社団法人日本キャンプ協会 Monthly Report vol.11 2013/2/25

発行者：公益社団法人日本キャンプ協会 事務局長 金山竜也

お問い合わせ・電話：03-3469-0217

e-mail: ncaj@camping.or.jp



Monthly Report vol.12は3月25日(月)ころの発行を予定しています。